

# 大学図書館問題研究会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付  
 (Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

## メルボルン滞在報告

京都学園大学図書館 大館和郎

京都学園大学では、1993年度より短期海外研修を始めました。研修先はオーストラリア、ビクトリア州、メルボルン大学、ホーウッドランゲージセンターで、英語研修を中心に、オーストラリアの歴史や文化を学習する内容になっています。滞在中の学生の宿泊はホームステイ方式です。プログラムが終了して帰国したあと、指定された科目登録を行わない単位が認定されます。今年の春、引率者（2名）のひとりとして約1ヶ月現地に滞在する機会を持ちました。プログラムは午前中は授業、午後はフィールド・トリップ（社会見学）が週に2回程度あります。自由時間は可能なかぎり様々な場所をでかけました。見聞したことをまとめるのにより機会と思って報告します。

メルボルン大学はオーストラリアで2番目に古い大学で1855年に開学されました。11の学部の建物と附属施設を持ち、教職員は2千人、院生も含めた学生総数は約3万人という総合大学です。キャンパス内の建物は古いままでそのまま残っているものが多く、芝生、樹木、庭園などの緑が多いのとあいまって非常に落ち着いた感じを与えています。学生の服装は、日本と比べるといたって質素かつカジュアルです。留学生の中ではアジア系の学生の割合が多いという印象をうけました。語学力の壁もあって日本人学生は少ないようです。

大学の図書館ネットワークは、メインライブラリーと学部ごとにあるランチライブラリーから構成されています。大学内のすべての図書館の蔵書冊数は300万冊以上あるそうです。メインライブラリーは地上5階、地下1階からなり、身分証明のチェックもなく気軽に入館することができます。人文・社会科学関係の資料が豊富にあり、そのほか数多くの特別コレクションを持っています。1階はレファレンス資料、マイクロ資料、複写資料が排架されており貸出・返却カウンター、レファレンスカウンター、目録室などがあります。又利用頻度の高い資料として教員が認め指定したも

### 目次

|                     |    |
|---------------------|----|
| メルボルン滞在報告（大館和郎）     | 1頁 |
| 書評「ケンペルと徳川綱吉」（竹本文夫） | 6頁 |
| アンケートのお願い           | 7頁 |
| 全国大会のご案内            | 8頁 |

のをリザーブコレクションと呼んでいます。館内のみ2時間以内の閲覧に利用が制限されています。一般図書は2階・3階・4階に、新聞・雑誌は地下1階にそれぞれ排架されています。政府刊行物は3階に排架されています。3階の一角に東アジア資料室があり、主に中国語・日本語の図書と雑誌を所蔵しています。語学、文学、その他人文学に重点をおいています。日本語資料をみかぎりでは、あまり専門的なものはありません。時期的には明治以降の近代に分野がかたよっているようです。日本語を勉強している学生にとってはむしろ平易なことばで書かれた本のほうがありがたいようです。寄贈された赤川次郎の文庫本が学術図書にはさまれて排架されているのが奇妙な印象をあたえていました。オーストラリアに関するレファレンス資料をいくつかあげてみます。

ABI : Australian Business Index. Monthly

ビジネス関係の新聞・雑誌から収録。主題索引、地域名索引をアルファベット順に配列

APAIS : Australian Public Affairs Information.

産業関係の記事から収録。

A guide to sources of information on Australian industrial relations.

The Australian Encyclopaedia, 5th ed. (1988)

Terry Hills, N.S.W. : Australian Geographic Society, 9 vols.

Who's Who in Business in Australia.

Melbourne : Information Australia, 1992

目録は、カード、マイクロフィッシュ、コンピューター端末の3つの形態を併用しています。カード目録には1980年以前に受け入れられた資料のデータがはいており、1981年以降に受け入れられた資料のデータはマイクロフィッシュかコンピューター形態の目録を使って調べます。コンピューター端末は学内のほとんどのブランチライブラリーのものと同オンラインでつながっていますが、さらにオーストラリア国内(AARNet: the Australian Academic and Research Network)、外国(主に米国)ともネットワークが形成されています。オンライン目録システムによる検索方法は日本の大学図書館で見られるものとあまりかわりません。データベース情報サービスも受けられます。主なものをあげてみますと、

DIALOG

AUSINET (Australian Information Network : 社会科学)

Australian Life Sciences Network (MEDLINEを提供)

CIRO-Australis (オーストラリアの社会科学)

Pergamon-ORBIT Infoline (社会科学)

European Space Agency-Information Retrieval Service

(科学・技術・交通・都市計画・建築)

Bibliographic Retrieval Services, Pergamon Infoline

(化学・工学・特許・技術・ビジネス)

QUESTEL

(フランスのオンライン情報システム、他のシステムでは利用できない独自のデータベースをたくさんもっている。社会科学・経済学・人文科学・物質科学・生命科学)

Chemical Information Systems (化学・毒物学)

STN International

(CAS: Chemical Abstract Service ほかさまざまな科学データベース)

このサービスは20分以内、文献数100までなら無料になります。にもかかわらず利用件数が減っているのは、CD-ROM資料で代替しているのではないかと図書館サイドでは分析しています。というのもここでは近年、CD-ROM資料が急速に増加しているからです。CD-ROMをネットワークに組み込むことによってどのコンピュータ端末からも容易にアクセスできるようになっています。

図書の貸出条件は、冊数制限なしで、期間は28日間です。この期限を守って図書を貸出カウンターにもってきたら、さらに延長して借りることができます。館外の図書館から借りることもできます。申し込んでから届くまでの期間は、ビクトリア州内から5~7日他州から7~15日、外国からは4~8週かかるようです。新聞・雑誌の記事を複写して送ってもらう場合も同じです。1992年からは、緊急に必要な資料のための速達サービスが始まりました。協定を結んだ参加館は、申し込み書が届くと、24時間以内に資料を送ることになっています。料金は、オーストラリア国内に申し込む時、無料です。但し、複写物は、60ページ以下に制限されています。外国に申し込む時は、有料です。又これとは別に、直接、他大学図書館に行つて図書を借りる制度があります。メルボルン近郊の大学図書館の間で相互貸借協定が結ばれており、学生はIDカードを提示して、図書を借りることができます。

他の学部専門図書館に関しては、法学部図書館以外は見学していませんので、名称と概要だけ書いておきます。

Agriculture and Forestry Branch Library.

農学・林学に関する 35,000冊の文献とCD-ROMを所蔵。

Architecture and Planning Branch Library.

建築に関する 45,000冊の文献を所蔵 Botany Branch Library. 植物学に関する 24,000冊の文献を所蔵。

Brownless Medical Branch Library.

120,000冊の文献を所蔵。AV部門、医学史部門、稀観本室、医学史博物館を備えている。

Chemistry Branch Library.

化学分野の 25,000冊の図書を所蔵。

Dental Science Branch Library.

大学の歯科病院内にある。10,500冊の文献を所蔵。

Earth Science Branch Library.

地質学分野の35,500冊の図書を所蔵。

Engineering Branch Library.

工学分野の84,000冊の図書を所蔵。

Institute of Education (Education Resource Centre, Media Services).

教育・社会科学・工芸・視覚芸術・パフォーマンスアーツに関する 280,000冊の文献を所蔵。

School of Early Childhood Studies.

児童教育に関する資料を80,000点所蔵。

Law Branch Library.

127,000冊の文献を所蔵。

Music Branch Library.

15,000冊の図書と録音資料を所蔵。

Physics Research Branch Library.

16,000冊の図書を所蔵。

Veterinary Science Branch Library.

22,500冊の文献を所蔵。

Zoology and Genetics Branch Library.

23,500冊の文献を所蔵。

メルボルンには3つの大学 (University of Melbourn, Monash University, La Trobe University) がありますが、メルボルン大学はいちばん市の中心部に近いところにあります。しかし周囲に公園が多く、緑の中に建物があるような感じですが。メルボルンの街自体が Garden City と呼ばれているように公園があちこちにあります。高層ビルは市の中心部を除いてありません。住居は庭つきの一戸建てが大部分をしめています。メルボルン市の人口は300万でオーストラリアでは2番目に大きい都市ですが、市街地が

拵がっているために、ひとがそれほど多いとは感じられません。街をあるくひとの動き・表情もゆったりしています。市内を路面電車が縦横に走っており、かつての京都を思い起させます。車内はオーストラリア社会の縮図といえます。さまざまな人種・民族の人間がいっしょに乗り合わせ、さまざまな言語が車内を飛びかっています。運転士の肌の色もさまざまで、又女性がなっていることも珍しくありません。アメリカに滞在した人の話によると、同じ多民族社会でもアメリカ社会の方が、人の表情がけわしく、緊張しているそうです。この違いはどこからくるのか。

オーストラリア政府が白豪主義政策から移民受け入れ政策に方針を転換してからだいぶたちますが、特にメルボルンは移民のるつぼと化しており、移民街があちこちに形成されています。アメリカと違ってあからさまな人種差別はみられませんが、問題がまったくないわけではありません。現在オーストラリア政府は他民族・他文化に寛容な社会をめざしているわけですが、この多文化主義に対する反発が起こりつつあると現地の新聞が報じています。1990年代にはいって景気が悪くなり、失業者が増えてきたのが原因とみる人もいます。移民(特にアジア人)が増えたために、職を失ったと考える人もいるのです。しかしやはりオーストラリアは基本的には国が豊かだと思えます。というのも街中で一度も浮浪者を見かけなかったからです。失業者には次の職が見つかるまで十分な失業手当がもらえると聞きました。長期的にみれば、アジア諸国との経済的な結びつきが深まるにつれて、多文化主義が根をはってゆくと思えます。これに同調するかのよう、オーストラリア先住民族アボリジニーの復権が起こりつつあります。街の本屋をのぞいてみると、アボリジニー関係の本がかなり出版されていることがわかります。博物館や美術館のなかには、たいていアボリジニーのコーナーが設けられています。ただメルボルン市内では彼らをあまりみかけませんでした。北部のクィーンズランド州に比較的多く住んでいるそうです。現在は伝統的な生活様式を維持している者はほとんどいなくなり、大部分が都市に住んでいます。

1カ月間、ほとんどメルボルン近郊から出なかったのですが、一度貸切バスによって2泊3日の研修旅行に出かけました。行き先はポートフェアリーといってメルボルンから西へ300キロの距離にある古い港町で、歴史的な建造物と自然に囲まれた保養地といった趣があります。ここで現地の日本語プログラムを受けている高校生との交流会がありました。メルボルンとちがい、このような田舎町ではめったに日本人と話す機会がないと引率の先生が説明されました。オーストラリアでは日本語教育がさかんで、アシスタント教師として日本人があちこちで活躍しています。たいていは女性で、待遇がそんなに良くないにもかかわらず、いきいきとして働いています。独立心の強い人が多く、過去の経歴もさまざまです。

3月24日予定通りプログラムを終え、メルボルンを後にしました。日本に帰る途中、ケアンズに2泊しました。オーストラリア北部にある観光都市で、亜熱帯気候にはいります。グレートバリアリーフという珊瑚礁地帯への観光拠点です。いささか疲れ気味とおもいきや、学生たちは非常に元気でダイビングや、バンジージャンプ(高さ30メートルの鉄塔に結びつけたゴムひもで両足をしばって飛び降りる遊び)を楽しんでいました。

1カ月という期間で見聞したことですから、見落とししたことや不正確なことを述べたかもしれないかもしれませんが、とりあえず報告を終わります。

## 《書評》

## 『ケンペルと徳川綱吉』（中公新書）

## 世紀の大旅行家ケンペルの数奇な生涯と犬公方綱吉の治世の再評価

竹本文夫（同志社大学人文科学研究所）

一気に読んだ。こんな面白い本は久しぶりである。著者によれば、江戸時代から天下の悪法といわれていた「生類憐れみの令」は、実は「名君」綱吉の施政方針原則の一つを示す「社会的弱者や貧者を保護することを目指した法律」なのだそうである。

著者は次のように主張する。「綱吉の治世において、捨て子が法律で禁止され、……親が子供を育てる財力を持たない場合は、親に代わって子供の世話をすることが、役人の義務となった。……将軍綱吉の命令によって、牢屋内部の換気が改善され、囚人は一ヶ月に少なくとも五回は風呂に入ることが出来るようになり、冬の間は追加の衣料が支給されるようになった。……旅の途中で病気になった場合……旅人を宿屋から追い出すなどということはもちろん禁止されたが、このたびはそれに加え、治療を施すことが法律で定められた。死者が出た場合、その地方の役人が埋葬の手はずをととのえるべきであるとされた。つまり、この時代に定められた諸々の法律は、近代の社会福祉立法の先駆的なものだったのである。」

著者はこの他にも綱吉の治世をいろいろと検証する。その内容は、説得力があり、従来自分が漠然と持っていた

犬公方綱吉のイメージを一挙にくつがえすものであった。そしてあらためて歴史とは何かを考えさせられた。

もともと以前から多少ケンペルについて興味を持っていたので購入したのだが、そしてこの本は、基本的にはケンペルの評伝であるが、読んでみてケンペルの来日した江戸元禄期の将軍、綱吉の治政の評価に衝撃を受けたのは予想外だった。

ケンペルは、1651年にドイツで生まれ大学卒業後スエーデン王の使節団秘書官となり、ヨーロッパ各地を通ってベルシャに滞在、同地からオランダの東インド会社に就職運動、同社に採用される。1688年東アジアへ向けて出発し1690年（元禄3年）日本に上陸、2年長崎の出島に滞在した。その間2回江戸へ出府、将軍に拝謁。帰国後『廻国奇観』を出版。死後イギリスから彼の著『日本誌』が英語に翻訳・出版され、以後幕末の日本開港まで欧米での日本事情最高の参考書となる。カントやゲーテなど知識人に読まれ、ペリーも黒船の中で熟読したという。

著者はB. M. ボダルト＝ベイリー。ドイツに生まれイギリスで高校を卒業。ルフト・ハンザ東京支社に勤務後オーストラリア国立大学大学院に入学、千利休の手紙を研究、16世紀後半の茶の

湯制度についての修士論文を書く。その頃オーストラリア政府の外交官と結婚し、一児の母となる。博士論文のテーマは、綱吉のもとで辣腕を振るった柳沢吉保の政治活動の研究。同国立大学の研究員として採用され、現在に至る。以上の経歴から分かるように著者は、ケンベルと同じドイツ語を母国語とし、かつケンベル来日当時の江戸元禄期を専攻する日本史の研究者である。ケンベルの手書き草稿を大英博物館で丹念に調査し、幾つか新資料を発見。

ケンベルをめぐる訴訟記録をはじめ各種関連文書もすべてオリジナルに当たる。こうして帰国後のケンベルの生活も詳細に明らかにする。著者が描くケンベルの数奇な家庭生活——異母妹と妻との精神的三角関係——は「事実は小説よりも奇なり」で読者の胸を打つ。日本の当時の関連古文書もすべて自分で解説・分析している。これ以上ケンベル研究に適した人はいないといっていであらう。とにかく一読をおすすめする。

### 第3回大学図書館員京都研究集会に向けて— アンケートのお願い

大学図書館問題研究会京都支部委員会では、第3回大学図書館員京都研究集会をより充実させるためにアンケートを実施することにしました。アンケート内容については、「利用者教育」をメインテーマとした場合のより細かなテーマの設定や、研究者による基調報告のテーマ、開催日程などについての項目を設けました。また各館でどの様なガイダンスが行なわれているかという実態も調査したいと思います。研究集会を盛り多いものとするためにも、是非、積極的なご意見をお待ちしています。

アンケート結果については支部委員会で分析を行い、8月号の支部報に掲載する予定です。

アンケートは、支部委員がいる大学（京都大学・同志社大学・立命館大学・京都橋女子大学・京都学園大学）は、支部委員が回収します。支部委員のない大学の方は、同封の返信用封筒でご返送下さい。

ご協力の程よろしくお願い致します。

**アンケートは本号に折込。締切7月20日(水)。**

—コマーシャル【全国大会のご案内】—

(テーマ) **ともに感動できる****大学図書館づくりをめざして**

大学図書館問題研究会第25回全国大会開催要綱(案)

(会期) 8月27日(土) 1:00 ~ 8月29日(月) 12:00

(会場) KKR山口あさくら(山口市・湯田温泉)

じゃーん!!。ついに出ました、今年も夏の全国大会(甲子園ではない)の要綱が。支部委員会にもたらされた情報は「案」つきでしたが、皆さんのところへは7月号の「大学の図書館」で届くことになっています。それにしても「ともに感動できる」とはなんともグーなキャッチフレーズじゃないですか。「私だって感動したい!!」とお嘆きの貴兄・貴女にはまたとない福音ですよ、きっと。

で、開催場所がどこか

とゆうと、じつはこれが **湯田温泉!!** なんですねえ。温泉好きのあなた、体じゅうがうずきますねえ。分科会の説明なんかしようと思っただんですが、急ぎよ予定を変更して観光ガイドをやってしましましょう。

湯田温泉、といっても山口市街にある。何でも山陽屈指の温泉で、旅館やホテルが立ち並ぶそう。湯は肌ざわりが良い・・・ということは「美人の湯」(注1)に分類できるわけです。周防山口といえば、言わずと知れた「西の京」。まあ、こっちの京都とは兄弟分みたいなもんだ。是非行って交流しましょう。

市内には京都に負けないくらい名所・旧跡も多い。「西の京」建設の主役、大内氏関係の社寺やフランシスコ・サビエルの聖堂、それから幕末・維新の遺蹟などがメインですか。まあ

どんなに忙しくても **瑠璃光寺** の五重塔(国宝)ぐらいはひと目見ておきたいですねえ。ちょっと足をのばす余裕のある人には萩、津和野も近いし秋吉台だってある。たしかこのへんに、リバイバルでSLが煙はいて走ってる、ありませんでしたっけ?。興味のある人は観光ガイドか時刻表で調べて下さい。

おととと、だんだん何をしに行くのかわからなくなってきました。しかし、時には息抜きも必要。このさい、山口支部の皆さんのイキなはからいに便乗しましょう。そして、ひとつでもふたつでも「感動」して(別に、大会で感動しても、温泉に感動しても、それはどっちだっていい)、こんこんと湧いてくる元気を持って帰ろうじゃあ～りませんか。(注2)

(注1)他に子宝の湯、長寿の湯、薬湯等がある (注2)「温泉」との掛詞(かざり)